東京都西部学校経営支援センターだより
令和２年　９月２８日　発行
第６４号

西 ～にし～

Ｇｏｏｄ Ｎｅｗｓ特集号

■成瀬高等学校「成高新聞社プロジェクト」

本校では、今年度から新分掌「探究研修部」を立ち上げ、次期学習指導要領の要となる「総合的な探究の時間」の指導体制の確立や内容の充実に向けて活動を進めています。また、３年間の「総合的な探究の時間」での学びの取組みを「成瀬 BB！プロジェクト」（「西部学校経営支援センターだより　西～にし～ＧｏｏｄＮｅｗｓ特集号（第２５号）」（令和２年６月２４日発行）参照）と名付けています。

年度始めから予定していた立ち上げは、４・５月の臨時休業の影響を受けて少し遅れたものの、７月１３日（月）から１年生を対象にした７つのチームプロジェクトがスタートしました。チームプロジェクトは、実社会が抱える課題に対して、チームで設定した切り口からアプローチし、解決を図っていきます。企業や大学、独立行政法人等、７つの外部機関と連携し、本物に触れ、本物の経験（成功・失敗）を通し、本物の思考力を養うことを目的としています。

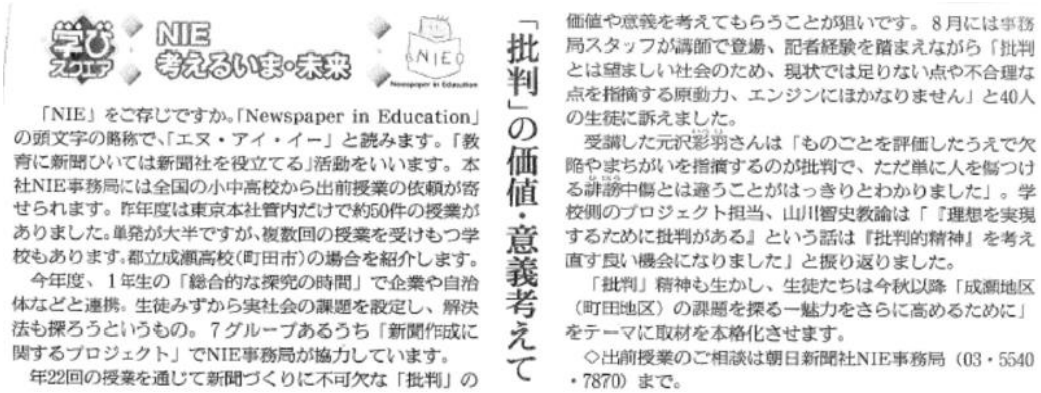
７つのプロジェクトのうちの１つである、「これからの時代をリードする　成高新聞社プロジェクト」では、朝日新聞社に御協力いただき、成瀬地区（町田地区）の魅力を発信するための新聞を作成することを最終目標に活動をしています。８月３日（月）には朝日新聞社ＮＩＥ事務局長・白銀　康　様をお招きし、新聞づくりに不可欠な「批判の価値や意義」について御講演いただきました。「批判」に似た言葉として「誹謗中傷」がありますが、「批判とは、望ましい社会、理想の社会を実現するために足りない点を指摘するためのものだ」という話には、生徒も納得しながら聞き入っていました。



講演を聞いた生徒からは「『批判』と『誹謗中傷』の違いがはっきりと理解できた。現在ソーシャルメディアを賑わしている多くの投稿が『批判』ではなく、人を傷つけるだけの『誹謗中傷』であると区別できるようになった」などの感想が述べられ、今後の新聞作成に向けて大きなヒントになったことと思います。

この講演の様子は、９月５日（土）付の朝日新聞東京版に掲載されました。ネットの時代に求められる新聞とは、どのようなものか。新聞に求められる役割は何か。それをどのように形にしていくか。生徒たちは、この解決に向けて探究し続けていきます。

（探究研修部
教諭・山川　智史）



NIE 考えるいま・未来

「NIE」をご存じですか。「Newspaper in Education」の頭文字の略称で、「エヌ・アイ・イー」と読みます。「教育に新聞ひいては新聞社を役立てる」活動をいいます。本社NIE事務局には全国の小中高校から出前授業の依頼が寄せられます。昨年度は東京本社管内だけで約50件の授業がありました。単発が大半ですが、複数回の授業を受けもつ学校もあります。都立成瀬高校（町田市）の場合を紹介します。

今年度、１年生の「総合的な探究の時間」で企業や自治体などと連携。生徒みずから実社会の課題を設定し、解決法も探ろうというもの。７グループあるうち「新聞作成に関するプロジェクト」でNIE事務局が協力しています。

年22回の授業を通じて新聞づくりに不可欠な「批判」の価値や意義を考えてもらうことが狙いです。８月には事務局スタッフが講師で登場、記者経験を踏まえながら「批判とは望ましい社会のため、現状では足りない点や不合理な点を指摘する原動力、エンジンにほかなりません」と40人の生徒に訴えました。

受講した元沢彩羽さんは「ものごとを評価したうえで欠陥やまちがいを指摘するのが批判で、ただ単に人を傷つける誹謗中傷とは違うことがはっきりとわかりました」。学校側のプロジェクト担当、山川智史教諭は「『理想を実現するために批判がある』という話は『批判的精神』を考え直す良い機会になりました」と振り返りました。

「批判」精神も生かし、生徒たちは今秋以降「成瀬地区（町田地区）の課題を探る一魅力をさらに高めるために」をテーマに取材を本格化させます。

◇出前授業のご相談は朝日新聞社NIE事務局（03・5540・7870）まで。

「批判」の価値・意義考えて

東京都西部学校経営支援センター
〒１９０－００２２　東京都立川市錦町４－６－３　東京都立川合同庁舎４階
電話　（管　理　課）　（０４２）５２７－６５９０
（経営支援室）　（０４２）５２７－６９８０　ファクシミリ　（０４２）５２７－６４６８